

# 25 journal

society&business Tokyo25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

青梅市天ヶ瀬の鎮守、八坂神社社殿の上棟式が7月27日に行われた。神社、自治会役員と工事関係者ら50人余りが列席した。柱や

## 八坂神社で社殿上棟式



昔ながらの「曳綱(つな)の儀」

### 青梅市天ヶ瀬の鎮守 古式ゆかしい儀式 竣工に思い馳せ

梁などの基本構造が完成した社殿で、竣工後も建物が無事であるよう祈願した。

同神社の裏山を都市計画道路が通ることから、社殿を南側にずらし移設新築する。計画から都との合意まで長い時間を要したが、神社、自治会、建設委員会などの努力で3月から工事が進んでいる。新しい神社の規模は、幅2間半、奥行き2間で、軒を含むと43平方メートルになる。建築様式は京都の八坂神社と同じ寄棟平入造り。中には唐草模様の彫刻が施され、屋根は銅板で



あいさつする神社責任役員の前嶋さん

最後ににぎやかに餅撒きが行われ、小さな子どもから年配者までが新社殿の竣工に思いを馳せた。前嶋さんは「裏山に道路が計画されて都の要請を受け、多くのみなさんの知恵と協力をいただき、上棟式を迎えた。安全の上に安全を重ね、立派に竣工を迎えることを心待ちにしている」とあいさつした。



にぎやかに餅撒きが行われる

式では、同神社代表役員で住吉神社(住江町)の梅宮貴史宮司が古式ゆかしい儀式に則り神事を行い、神社責任役員の前嶋和利さん、並木茂さんが切り麻散米で、お祓い掛け声に合わせて綱を引いた。

## 吉川英治筆名誕生100周年で講演会

英治忌の9月7日に開催

### 京極夏彦さん 「妖怪レシピの隠し味」民話と情話

吉川英治筆名誕生100周年記念講演会が英治忌の9月7日に青梅市役所で開催され



る。「妖怪レシピの隠し味」民話と情話」をテーマに吉川英治文学賞を受賞した小説家の

京極夏彦さんが語る。英治は「新・平家物語」や「宮本武蔵」の著作で知られ、

1944(昭和19)年に当時の吉野村に疎開した。時を経て住居が記念館になっている。「吉川英治」の筆名を初めて使ったのが1925(大正14)年、「剣難女難」の連載のとき。今年は100周年に当たる。京極さんは1994(平成6)年「姑獲鳥の夏」で小説家デビュー。2004(平成16)年「後巷説百物語」で第130回直木賞を受賞した。2011(平



専用ロゴフォームはこちら

## 羽村市ゆかりの作家が合同展覧会

### 漆芸家の並木恒延さん 木工芸家の五十嵐誠さん 面打ち師の新井達矢さん

羽村市にゆかりがある漆芸家の並木恒延さん、木工芸家の五十嵐誠さん、面打ち師の新井達矢さんによる合同展覧会が8月12日から



「蝉しぐれ」並木恒延さん



小面 新井達矢さん

同市プリモホールゆとろぎで始まった。主催は同市教育委員会。並木さんは時絵、螺鈿、卵殻といった漆芸の伝統的な技法を用いて、絵画的な表現で独自の世界を切り拓いた。2018(平成30)年に「月出ずる」で第75回日本芸術院賞を受賞した。

五十嵐さんは針葉樹を彫るという独自の技法を確立。彫りやすい(綺麗に仕上がる)合理的な材料を使わないことで今までになかった作品を生み出した。2021年に第68回日本伝統工芸展で新人賞を受賞した。

新井さんは室町時代から受け継がれてきた面を忠実に再現するほか、能楽師や美術館からの依頼を受け、修復も行なっている。開催時間は10時から17時。会期は8月24日まで。

展覧会開催を記念し、作品の魅力を伝えるために市民による三人展図録製作委員会が立ち上がり、図録1500冊を制作した。各作家と羽村のかわり、作家の略歴、作品紹介等が掲載されている。同委員会の武政健太郎代表は「3人は羽村市が誇る作家。展覧会で心血を注いで制作した作品を多くの市民に見てほしい。図録も多くの皆さんの協力をもらい立派なものができる」と話した。



神代樺造提盤「薄明」五十嵐誠さん